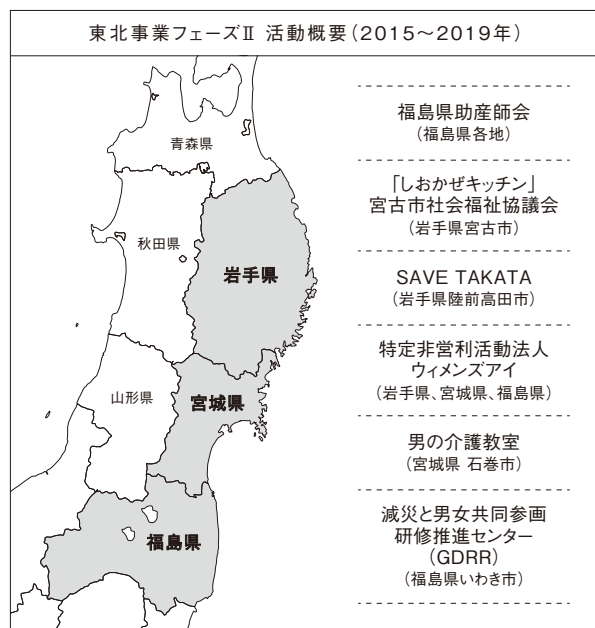




東北の未来に
～東日本大震災から8年～

ひとりひとりが大切にされ
ひとりひとりの力が発揮される地域づくり
東日本大震災の被災地で
新たに生まれた光を輝かせるために
JENは現地で奮闘する方々を
支援し続けました

働き方改革と 国際支援

長年NGOで働いている友人が、役職を降り、その組織の海外の現場に『復帰』した。計画的な世代交代戦略の一環でもあり、NGOの働き方が多様になってきている例でもある。今や平社員から管理職、そして組織の責任者になることを目指す人ばかりではないのは、NGOも同じだ。NGO職員の場合、誰かの役に立っていることを実感しやすいので、現場の魅力が増すのかもしれない。

とはいえ、誰かの役に立つというのは、全ての仕事に通底することだと思う。目の前の書類業務自体は、被災された方の生活改善に直結していると感じにくいかもしれない。けれども、誰かがそれをやらなければ被災された方との触れ合い自体も存在しえない、大事な支援活動の一部だ。

先日、ノー残業デーで早く帰れる貴重な時間を使って、書類業務を助けてくださるといふありがたいお申し出を企業からいただいた。企業での日々の業務で磨かれた腕を活かしてくださるとのこと。

一人の働き方が変わることが、JENの働き方にも良い影響を与え、支援活動の質を高め、世界を変えてゆく。一人にできることは小さくない。

理事・事務局長 木山啓子

三重県の 中学3年生が JENを訪問

2019年6月12日(水)に三重県の中学3年生の生徒さん8名がJEN東京本部に修学旅行の校外学習の一環として来てくださいました。皆さん熱心にメモを取りながら、説明を聞いてくださりました。若い世代の皆さんに活動を知っていただき、国際協力について一緒に話し合うことが出来、嬉しく思いました。ご来訪をありがとうございました。



書き損じのハガキや未使用の切手はありませんか？

あなたの未使用の(書き損じた)年賀状や官製ハガキ(郵政ハガキ)または、未使用切手をJENの東京本部にお送りください。JENの支援活動のために活用させていただきます。



●ご寄付いただいた皆さま、御礼申し上げます。現在、お礼状の発送にお時間を頂いております。お待たせして大変恐れ入りますが、今しばらくお待ちください。

〒169-0073

東京都新宿区百人町1-21-20

特定非営利活動法人ジェン「ハガキ・切手係」

お宝エイド

使わなくなったアクセサリー、貴金属、カメラなどの“お宝”をご寄付ください。

www.jen-npo.org/otakara-eido/



BOOKMAGIC

ブック・マジック

JENとブックオフオンラインによる、今すぐカンタンに参加できる寄付プログラム。

www.jen-npo.org/bookmagic/



Fashion Charity Project

ファッション・チャリティ・プロジェクト

ファッションアイテムを「寄付」または「買って」社会貢献。

<http://www.jen-npo.org/fcp>



本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。

東京本部事務局の住所について

今回ニュースレターをお送りする際に使用している封筒の記載住所は旧住所となります。修正に要する費用などを勘案した結果、封筒に表示する住所については、当面古いままで使用し続けることといたしました。皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解賜われますようお願い申し上げます。

「東北」

共創こそが答え

JENの東北支援でうまれた取り組みは未来へと続いていきます

東日本大震災直後から宮城県石巻市を拠点に開始された緊急支援・復興支援事業をフェーズⅠとして、2015年10月からはフェーズⅡとして、JENが現地の団体とパートナーシップを組んでともに、歩む形で復興を支援しました。地元の方々が事業の実施主体として活動され、JENは、NGOで培った経験を元に事業コンサルティング、運営・経営面での支援を行いました。

JENは、復興から取り残されがちな方々を中心に据えた事業を支えることを目標にしました。こうした方々を対象に活動している団体にパートナーとなつていただき、彼らが推進するエンパワーメントが強化される様関わらせていただきました。対象は赤ちゃんから高齢者までと多様です。

各パートナー団体は、以下の様な活動をされています。

福島県助産師会は、乳児と母の孤立に対し、母親同士や助産師と話せるサロンを運営。また、医師や

保健師、保育士等母子にかかわる専門職の連携を強化する勉強会を福島県各地で実施しました。

岩手県の宮古市社会福祉協議会では、貧困や被災により困窮する子どもたちの世帯に対して、子ども食堂を開催。社協職員やスクールカウンセラーなど地域の支援者とともに、親たちの信頼関係を育み、生活課題の解決に向けた取り組みが行われるようになりました。

若者の流出に悩む岩手県陸前高田市で、SAVE TAKATAは地元の中学校と連携して子どもたちによるまちづくりを支援し、参加した中学生たちは「地元をもっと好きになった。これから地域のためにできることをやっていきたい」と話すまでになりました。

岩手県・宮城県・福島県の若手女性たちがもつと地域で活躍できるようにとウイメンズアイが若手女性のリーダー育成を行い、参加者たちは自分たちの地域で様々なアクションを起こしました。

宮城県石巻市では、歯科医師や歯科関係者、ケアマネージャーなどが男性介護者のための「男の介護教室」を実施していましたが、教室は石巻市内や近隣地域においてそれぞれの地域のグループによって担われるまでになりました。

福島県いわき市では、小さな子どもを持つ母親たちが、JENの支援を受けて乳児や障害児の親の視点からの防災講座の講師として活躍することができるようになりました。

各パートナー団体の活動はこれからも続いていきますが、一定の成果を上げたことから、JENの東北事業のフェーズⅡの活動は、2019年3月をもって終了しました。震災から8年、いま必要とされている支援を目指し、JENは、フェーズⅢへと準備を進めています。支援者の皆様に心からお礼を申し上げますと共に、これからもJENの活動を支えていただけますよう、よろしくお願いいたします。

VOICE

しおかぜキッチンに参加者の声

参加者の声：こはるさん(仮名)
参加場所：子ども食堂「しおかぜキッチン」



しおかぜキッチンに参加するきっかけは、友人の紹介でした。参加するようになって、子どもたちは「しおかぜキッチンで出てきたあのメニュー、家でもつくって!」とリクエストするようになり、今まで食べなかった苦手な食材も食べてくれるようになりました。

それだけではなく、しおかぜキッチンに行けば子どもたちは他校の子どもたちと一緒に遊ぶ機会があり、宿題を持っていけば見てくれる点も嬉しく感じています。スタッフの皆さんに日頃の悩みを相談することができ、自分も心の支えになっています。しおかぜキッチンは、今のまま、ずっと続いてほしいと思います。

「アフガニスタン」

ゆめポッケの配布

JENは、2002年からアフガニスタンでゆめポッケを配布させていただいています。今回は3月下旬から4月上旬にバルワン県チャリカ地区の17の小学校で、4,157人の子どもたちに届けました。長年ゆめポッケを配布していますが、雇用機会が非常に少なく、経済的に厳しい状況にある家庭が多いため、依然として必要性が高い地域としてここチャリカ地区を選択しました。ほとんどの子どもたちが文房具を持っておらず、政府からの支援も十分でないため、いまだに国際社会からの支援を必要としている状況です。

配布後の聞き取り調査では、ゆめポッケの配布によって生徒たちの勉強への意欲が高まったことや、学校に行っていなかった子どもたちを、学校に行かせるきっかけの1つとなったという意見がありました。

家では妹達と一緒に使っています。

僕は小学校2年生です。僕の弟は、まだ学校に行っていない。僕の一番の友達は、同じクラスで勉強しています。

先生はとても良い先生で、愛情をもって僕たちに教えてくれます。僕たちが時々宿題をやつてこない先生に叱られます。ゆめポッケには鉛筆、消しゴム、おもちゃの車が入っていました。僕はどれも好きだけど、家に帰ると妹達と一緒に使います。妹達もそのおもちゃでうれしそうに遊びます。こんな素敵なプレゼントを送ってくれた人達、ありがとうございます。

素敵なおもちゃをもらえてうれしいです。

私は、小学2年生です。先生はみんな良い先生で、私は学校が大好きです。私には3人の姉妹と2人の兄弟がいます。妹1人と弟1人はまだ小さくて学校に行っていない。私はとても良い友達がいるので毎日学校に行きます。私達は一緒に勉強したり遊んだりします。

私のお父さんはカブールに行くとき、時々鉛筆や消しゴムを買ってきてくれます。私は家にあまりおもちゃを持っていないのですが、妹や弟は小さいプラスチックのおもちゃや人形を持っています。私は時々それで遊ぶのですが、私には小さ過ぎます。今は、ゆめポッケで素敵なおもちゃをもらつてうれしいです。私の友達も人形、鉛筆、消しゴム、絵具や他のおもちゃをもらつて喜んでます。どうもありがとうございます。



動画でインタビューをご覧ください。
【注意】QRコードの読み取りを無料アプリで行われる方は「広告のURL」をクリックしないようご注意ください。

